

1 なぜ静岡県に空港を作ったのかな？

開港までのあゆみ

年月	出来事
昭和30年(1955年)頃～	地元有志から「小笠山国際貨物空港構想」の提唱
昭和60年(1985年)	県内政財界有志が「静岡県民間空港開設研究会」を設立
昭和62年(1987年)1月	静岡県の新総合計画(昭和61年度～平成7年度)に空港整備構想の推進が盛り込まれる
昭和62年(1987年)12月	空港建設予定地を榛原・島田に決定
平成5年(1993年)8月	静岡空港が国の第6次空港整備5箇年計画の中で新規事業化
平成8年(1996年)7月	運輸省(現国土交通省)が静岡空港の設置を許可
平成8年(1996年)11月	地権者会と補償協定を締結、用地買収を開始
平成10年(1998年)11月	空港本体工事に着手
平成13年(2001年)6月	建設反対派、地方自治法の直接請求権に基づき住民投票条例の制定を請求
平成13年(2001年)9月	静岡県議会、住民投票条例案を否決
平成18年(2006年)1月	静岡空港の愛称を「富士山静岡空港」に決定
平成18年(2006年)2月	空港運営会社「富士山静岡空港株式会社」が設立
平成19年(2007年)3月	用地取得を完了
平成19年(2007年)12月	富士山静岡空港(株)が旅客ターミナルビル建設工事に着手
平成20年(2008年)10月	静岡県は滑走路近くの航空法に反する立ち木問題を受け滑走路の暫定短縮化と開港予定日(平成21年3月)の延期を発表
平成21年(2009年)1月	本体工事完成、旅客ターミナルビル竣工
平成21年(2009年)6月	6月4日開港(暫定滑走路2,200m)
平成21年(2009年)8月	完全運用(滑走路2,500m、ILS完全運用開始)

富士山静岡空港の役割

「静岡県総合計画」(平成22年度～25年度)の中で、富士山静岡空港は交流を支えるネットワークの重要な拠点として、人、モノ、地域を結ぶ基盤の一つであるとともに、地域の魅力づくりにおける役割を果たすものとして位置づけられています。

1 社会資本としての役割

富士山静岡空港は、道路や港湾等と同様、静岡県の発展を支える重要な社会資本であり、県民にとっての利便性向上はもとより、国内外から仕事や観光で静岡県を訪れる人々の増加、物流の拡大、それに伴う県内経済活動の活性化においても果たす役割は大きい。

2 防災拠点としての役割

富士山静岡空港は、大規模災害時に道路交通網が遮断されることを想定し、応援部隊の進出や緊急物資の搬入、重症患者の県外搬送などの拠点に位置付けられている。現在、新たに空港西側を国の基幹的広域防災拠点として整備すべく調整が進んでいるほか、浜岡原子力発電所のオフサイトセンターも移転させる計画である。

富士山静岡空港の新聞記事

新聞記事全文は
「資料集」をチェック!!



新聞記事は
「開港までのあゆみ」の
どれに関連するか考えよう

もっと
知りたい!
Q&A



Q.富士山静岡空港の建設費はいくら？

A.総事業費は約1,900億円。そのうち、滑走路や誘導路など空港本体部分の整備に約490億円。それ以外は、空港周囲部や調整池の整備、緩衝緑地などの環境対策、空港アクセス道路の整備、河川改修などの治水対策、地元対策など、「空港周辺部の整備」に約1,410億円かかりました。